

2016 年 IEEE 関西支部 総会資料

**2016 年 2 月 2 日
IEEE 関西支部**

総会資料目次

I.	2016 年関西支部役員・理事	1
II.	2016 年 KANSAI CHAPTER 役員	5
III.	2016 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	7
IV.	2015 年 活動報告	9
V.	関西支部会員数	33
VI.	2016 年 活動計画	36
VII.	2015 年 会計報告	44
VIII.	2016 年 予算(案)	46
IX.	受賞者	48
X.	IEEE KANSAI SECTION BYLAWS	50

改訂履歴

2016 年 1 月 26 日 印刷原稿

2016 年 3 月 29 日 ソサイエティ別会員数訂正 (p. 35)

2016 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2016 年 2 月 2 日(火)15 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所:キャンパスプラザ京都 4F 第 3 講義室
京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2015 年活動報告および 2016 年活動計画
 4. 2015 年会計報告および 2016 年予算案
 5. 関西支部 BYLAWS の修正について
 6. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 7. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 8. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 9. IEEE 関西支部メダル授賞式
 10. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介及び研究紹介
 11. 閉会の挨拶

I. 2016 年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
Vice Chair:	種谷 元隆	(シャープ)
Secretary:	高森 信之	(シャープ)
Treasurer:	川村 博史	(シャープ)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
SAC Chair:	川村 新	(大阪大学)
TPC Chair:	程 俊	(同志社大学)
AC Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
COC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	橋本 正弘	(元大阪電気通信大学)
WIE AG Chair:	荒木 章子	(日本電信電話)
YP AG Chair:	熊木 武志	(立命館大学)

4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Past Vice Chair:	上田 修功	(日本電信電話)
Past Secretary:	山田 武士	(日本電信電話)
Past Treasurer:	須山 敬之	(ATR)

5. 理事 (Past Committee Chairs)

Past MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
Past TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Past AC Chair	楠本 真二	(大阪大学)
Past COC Chair	尾上 孝雄	(大阪大学)

6. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Secretary:	谷口 一徹	(立命館大学)
Member:	勅使川原 正樹	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府立大学)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	ペパー フェルナンド	(情報通信研究機構)

b. Nominations Committee

Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機)

c. Student Activities Committee

Chair:	川村 新	(大阪大学)
Member:	松田 崇弘	(大阪大学)
	石原 亨	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	間 博人	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	福水 洋平	(立命館大学)
	平田 孝志	(関西大学)
	奥 宏史	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	別所 宏晃	(関西大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	程 俊	(同志社大学)
Vice Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Secretary:	路 姍	(同志社大学)

e. Awards Committee

Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(シャープ)
	杉原 英治	(大阪大学)
	増淵 泉	(神戸大学)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Secretary:	西浦 敬信	(立命館大学)
Member:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	多賀 登喜雄	(関西学院大学)
	熊本 和夫	(大阪工業大学)
	南出 英明	(三菱電機)
	石崎 俊雄	(龍谷大学)
	杉立 厚志	(三菱電機)
	河原 達也	(京都大学)
	山口 真悟	(山口大学)
	藤崎 泰正	(大阪大学)
	三浦 友史	(大阪大学)
	山本 孝夫	(大阪大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	橋本 正弘	(元大阪電気通信大学)
Vice Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	小林 正明	(元三菱電機)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	荒木 章子	(日本電信電話)
Vice Chair	柳川 由紀子	(オムロン)
Vice Chair	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary	崔 恩瀾	(大阪大学)
Treasurer	桂井 麻里衣	(同志社大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair	和泉 慎太郎	(神戸大学)
Secretary	石田 哲也	(ウェーブテクノロジー)
Treasurer	佐藤 伸吾	(関西大学)

II. 2016 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	中村 孝	(ローム)
Secretary:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Treasurer:	中原 健	(ローム)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
Vice Chair:	永田 真	(神戸大学)
Secretary:	廣瀬 哲也	(神戸大学)
Treasurer:	新居 浩二	(ルネサス エレクトロニクス)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Secretary:	越智 裕之	(立命館大学)
Treasurer:	鳥飼 弘幸	(京都産業大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	多賀 登喜雄	(関西学院大学)
Vice Chair:	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
Secretary:	紀平 一成	(三菱電機)
Treasurer:	阪本 卓也	(兵庫県立大学)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Vice Chair:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	和田 友孝	(関西大学)
Treasurer:	林 海	(大阪府立大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	南出 英明	(三菱電機)
Vice Chair:	井上 昭彦	(パナソニック)
Vice Chair:	山下 茂	(立命館大学)
Secretary:	松島 秀樹	(パナソニック)
Treasurer:	廣本 正之	(京都大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Vice Chair:	柏 卓夫	(古野電気)
Secretary:	平塚 敏朗	(村田製作所)
Secretary:	井上 晃	(三菱電機)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	杉立 厚志	(三菱電機)
Vice Chair:	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	加藤 友章	(日本電気)
Treasurer:	村田 博司	(大阪大学)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Vice Chair:	河原 達也	(京都大学)
Secretary:	永原 正章	(京都大学)
Treasurer:	木下 慶介	(日本電信電話)

10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	山口 真悟	(山口大学)
Secretary:	長谷 智弘	(龍谷大学)
Treasurer:	坂本 直史	(名古屋大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	藤崎 泰正	(大阪大学)
Vice Chair:	太田 快人	(京都大学)
Secretary:	加嶋 健司	(京都大学)
Treasurer:	和田 孝之	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) All Japan Joint Chapter

Chair:	三浦 友史	(大阪大学)
Vice Chair:	森實 俊充	(大阪工業大学)
Secretary:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Treasurer:	笠 展幸	(岡山理科大学)

13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	山本 孝夫	(大阪大学)
Vice Chair:	田中 寿郎	(愛媛大学)
Secretary:	松井 利之	(大阪府立大学)
Treasurer:	中川 貴	(大阪大学)

III. 2016 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	渡邊 賢治	(シンセシス)
Chair:	續 毅海	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	Eric Aliwarga	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	益田 涼平	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	庄田 駿一	大阪大学大学院 情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Mentor:	近村 啓史	(フィックスターズ)
Chair:	高垣勇登	京都大学 情報学研究科
Vice Chair:	秋山大地	京都大学 情報学研究科
Treasurer:	穴吹元嗣	京都大学 情報学研究科
Secretary:	岸野瞬士	京都大学 情報学研究科

3. 立命館大学 (<http://www.ieee.se.ritsumeai.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	福水 洋平	(立命館大学)
Chair:	杉山 幸平	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Vice Chair:	高井 俊輔	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Treasurer:	清水 祐輔	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Secretary:	中瀬 裕太	立命館大学 理工学研究科電子システムコース

4. 奈良先端科学技術大学院大学(http://se.naist.jp/sb/index_ja.html)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	中川 尊雄	奈良先端科学技術大学院大学
Vice Chair:	藤原 賢二	奈良先端科学技術大学院大学
	Passakorn	
Treasurer:	Phannachita	奈良先端科学技術大学院大学
Secretary:	藤原 雄介	奈良先端科学技術大学院大学

5. 兵庫県立大学(<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン)
Chair:	盛田 健人	兵庫県立大学大学院
Vice Chair:	多田 翔平	兵庫県立大学大学院
Treasurer:	樋口 翔士	兵庫県立大学大学院
Secretary:	古川 翔一	兵庫県立大学大学院

6. 関西大学(http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	大村 泰久	(関西大学)
Mentor:	小宮 健治	(シャープ)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気)
Chair:	澤野 衡	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	赤松 純弥	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	小牧 健	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Treasurer:	川嶋 望	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻

7. 同志社大学(<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学)
Chair:	石崎 潤起	同志社大学大学院 理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	中村 晃	同志社大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻
Vice Chair:	落合 翼	同志社大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	岡 直孝	同志社大学大学院 理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	和田 理	同志社大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻

IV. 2015 年 活動報告

1. 総括

関西支部では MU レーダーのマイルストーンが認定(2014 年)され、2015 年 5 月 13 日に成功裏に式典を実施した。また、シニアメンバーへの昇格推進を継続し、昇格者は昨年よりも増加している。Chapter の Section 傘下への移行に伴う Joint Chapter 化、関西支部を幹事支部とする Chapter 数の増加も順調に進んだ。また、LMAG に続き設立された、WIE、YP の各 Affinity Group の活動も活性化され、関西支部の活動は、ますます拡大、充実しつつある。

2. 総会

2015 年 2 月 10 日(火)にキャンパスプラザ第 3 講義室において、2015 年総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group からの報告、YP 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施した。参加者は 51 名。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル受賞者

3. 理事会

2015 年は、以下に示す 5 階の理事会を開催した。

第 1 回理事会 1 月 16 日 キャンパスプラザ京都 出席者:16 名

・2015 年活動計画 ・2015 年各 Committee の活動計画 ・2015 年予算(案)

第 2 回理事会 2 月 10 日 キャンパスプラザ京都 出席者:16 名

・2015 年総会について

第 3 回理事会 5 月 27 日 キャンパスプラザ京都 出席者:16 名

・R10 総会報告 ・2015 年第 1 回 JC 理事会報告
・2015 年第 1～3 回 IPC 委員会報告 ・IEEE Delegation 報告
・2016 年 MAW 関西支部開催について ・各 Committee/AG 活動報告
・IEEE マイルストーン贈呈式(5 月 13 日)開催報告

第 4 回理事会 9 月 10 日 立命館大学梅田キャンパス 出席者:12 名

・関西支部 YP 賞募集について ・関西支部学生研究奨励賞募集について
・JC 第 2 回理事会報告 ・IPC 第 4、5 回委員会報告
・MAW 準備進捗状況 ・各 Committee/AG 活動報告
・2015 年 会計中間報告

第 5 回理事会 12 月 18 日 キ立命館大学梅田キャンパス 出席者:15 名

- ・関西支部 Young Professionals 賞選定
- ・関西支部学生研究奨励賞選定
- ・MAW の準備状況 ・2015 年の会計報告
- ・2015 年第 3 回 Japan Council 理事会報告
- ・2015 年第 2 回 Chapter Operation Committee Meeting 報告

4. 関西支部主催講演会

TPC および LMAG の企画により以下に示す計 3 回の見学会&技術講演会、IEEE 関西支部主催による技術講演会を 6 回開催した。講演者等の詳細は LMAG および TPC 活動報告参照。



第 86 回 MU レーダー技術の歴史と発展



第 87 回 Carrier-Grade Programmable
Virtual Mobile Networks

5. IEEE マイルストーン

関西支部から推薦した MU レーダーが IEEE マイルストーンに認定され、認定式典 (dedication ceremony) が開催された。

☆The MU (Middle and Upper atmosphere) radar, 1984

(MU レーダー)

- ・ 対象企業・団体:京都大学、三菱電機株式会社
- ・ Proposal Form 提出:2013 年 10 月 3 日
History Committee 承認:2014 年 7 月 30 日
Board of Directors による最終承認:2014 年 12 月 24 日
- ・ 2015 年 5 月 13 日、京都大学芝蘭会館にて認定式典、記念講演会、記念パーティーを開催
- ・ IEEE President の Howard Michel 氏より、京都大学、三菱電機(株)が銘板 (Plaque)を受領

全体で 155 件目、日本で 25 件目、関西支部で 7 件目



MU レーダープラーク受領



マイルストーン贈呈式
イベント「学生講演会」

6. 新組織の設立・変更等

2015 年 3 月 3 日付で、Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter の設立が正式に承認された。

7. Region 10 Meeting

2015 年 3 月 7 日(土)～ 8 日(日)の日程でバングラデシュの Dhaka で開催される Region 10 Meeting には、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

8. R10 Congress

2015 年 7 月 9 日～12 日にコロンボ(スリランカ)で開催された IEEE Region 10 Student/YP/WIE Congress 2015 に熊本 YP Chair および井上 WIE AG Chair が参加し、各国の参加者と情報共有及びネットワークの構築を行った。また、2016 年開催予定の Metro Area Workshop への参加への打診も行った。

9. 協賛会議

The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV)

主催: Center for Natural Science & Engineering Research

日時: 2015 年 6 月 15 日(月)～17 日(水)

場所: 北九州国際会議場

第 1 回 VLSI センターシンポジウム

主催: 立命館大学

日時: 2015 年 1 月 28 日(水)

場所: 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス ローム記念館

The 2015 International Meeting for Future of Electron Devices , Kansai
(IMFEDK 2015)

主催:IEEE EDS Kansai Chapter

日時:2015 年 6 月 4 日(木)～5 日(金)

場所:龍谷大学 アバンティ響都ホール

ヘルスソフトウェア活用セミナー導入編

主催:一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西

日時:2015 年 3 月 26 日(木)

場所:グランフロント大阪 ナレッジキャピタルカンファレンスルーム

2015 年 日本オペレーションズ・リサーチ学会 関西支部シンポジウム

主催:日本オペレーションズ・リサーチ学会 関西支部

日時:2015 年 11 月 14 日(土)

場所:京都府立大学 稲盛記念会館

平成 27 年 電気関係学会関西連合大会

主催:電気学会・電子情報通信学会・映像情報メディア学会・電気設備学会、
各関西支部

日時:2015 年 11 月 14 日(土)～15 日(日)

場所:摂南大学 寝屋川キャンパス

第 2 回 電子デバイスフォーラム京都

主催:一般社団法人 日本電子デバイス産業協会 (NEDIA)

日時:2015 年 11 月 12 日(木)～13 日(金)

場所:京都リサーチパーク (KRP)

Workshop on Display Electronic Systems

主催:映像情報メディア学会 (ITE)

日時:2015 年 12 月 9 日(水)～11 日(金)

場所:大津プリンスホテル

10. 情報発信

関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページで、技術講演会の案内、マイルストーン認定式典の報告など、タイムリーに情報発信した。また、トップページにてスライドショー形式による最近のイベント等の写真の表示、ドロップダウン形式のメニューの導入など、利便性を向上させた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

Newsletter の発行

No.28(2015 年 5 月 27 日発行):総会の様子や YP 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を提供。

No.29(2015 年 10 月 5 日発行): YP 賞、学生研究奨励賞の募集要項、技術講演会の開催状況、関西支部に関する情報を提供。

11. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

2015 年は、従来の MDC と SAC に加え YP も交えて、2 回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第 1 回は 6 月 18 日(木)に、第 2 回を 12 月 11 日(金)それぞれ新大阪で開催した。MDC、SAC、YP に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

2016 年 1 月 12 日現在、会員数は 2,245 名となった。会員数の減少を食い止めるためには Renew のし忘れを防ぐことが重要な課題であるため、Renew 時期に適宜その旨のメールを配信した。また、シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築し、そのサポートを行っている。その結果、2015 年の昇格者が 19 名となった。

b. Nominations Committee

2015 年 3 月 1 日締め切りの 2016 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、3 名の Fellow 昇格となった。

c. Student Activities Committee

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) SAC が中心となり、マイルストーン贈呈式プレイベント「学生講演会」を開催した(5 月 12 日)。
- (3) MDC と SAC と合同で Workshop を開催(6 月, 12 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (4) 各 Student Branch の Chair を集め Student Branch Chair Meeting を開催(7 月 27 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (5) また、立命館大学 SB で例年主催している English Presentation Competition を 10 月

16日に、関西支部の他のSBからの参加者も含めて実施した。優秀発表者にIEEE関西支部SACから表彰状を授与した。

- (6) Student Branch (SB)による自主的な活動としては、昨年までと同様に7大学合同で関西支部 Student Branch 交流会を12月に開催した。
- (7) ACと連携してIEEE関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は 11-e. Award Committee 報告の項を参照のこと。

d. Technical Program Committee

以下の表に示す計6回の技術講演会を実施した。

(*登録順のため第86回の開催日5/13が第87回の5/11と前後している。)

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE会員)	共催・協賛組織名
第 85 回	2015年 3月5日	ビッグデータ解析の統計的学習技術の基礎と電磁気の逆問題への適用			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	・田邊 信二 氏 (三菱電機株式会社) ・上田 修功 氏 (NTTコミュニケーション科 学基礎研究所)	29 (19)	
第 86 回	2015年 5月13日	テーマ: MUレーダー技術の歴史と発展			
		京都大学 医学 部創立百周年 記念施設「芝蘭 会館」稲盛ホー ル	・白川 功 氏 (兵庫県立大学教授, IEEE Japan Council History Committee Chair) ・津田 敏隆 氏 (京大大学生存圏研究所長) ・浜津 享助 氏 (元 三菱電機株式会社 電子 システム事業本部 プロジェク トマネージャ)	118 (28)	IEEE Kansai LMAG、 京都大学、 三菱電機株式会社
第 87 回	2015年 5月11日	テーマ: Towards 5G: Carrier-Grade Programmable Virtual Mobile Networks			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	・Prof. Tarik Taleb (IEEE Communications Society Distinguished Lecturer, Aalto University, Finland)	30 (10)	IEEE Communications Society Kansai Chapter、 同志社大学 モビリティ 研究センター

第 88 回	2015 年 8 月 20 日	テーマ: Towards 5G: Non-Orthogonal Multiple-Access via IDMA			
		同志社大学 京 田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	・Prof. Li Ping (IEEE Fellow, City University of Hong Kong)	18 (7)	IEEE Communications Society Kansai Chapter、 同志社大学 モビリティ 研究センター
第 89 回	2015 年 9 月 24 日	テーマ: 光科学の現在と未来: SPring-8/SACLA 見学講演会			
		独立行政法人 理化学研究所 放射光科学総 合研究センター	・吾郷 日出夫 氏 (理化学研究所 放射光科学 総合研究センター) ・登野 健介 氏 (理化学研究所 高輝度光科 学研究センター)	16(12)	IEEE 関西支部 LMAG
第 90 回	2015 年 12 月 15 日	テーマ: 太陽の驚異とスーパーフレア			
		京都大学 大学 院理学研究科 附属天文台 花 山天文台	・柴田 一成 氏 (京都大学 大学院理学研 究科附属天文台 花山天文 台長)	13(12)	IEEE 関西支部 LMAG

e. Awards Committee

2014年に引き続き、「IEEE 関西支部 Young Professionals」賞の募集を行った。本賞では、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。今年は10月16日に応募を締め切って、全体で1名の応募者があった。当委員会による議論の後、1名の受賞者を12月18日の支部理事会で決定した。

また、2015年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続してSACと合同で審査委員会を設立して行った。10月16日に応募を締め切ったところ、16名の応募者があった。当委員会による選定の後、12月18日の支部理事会で9名の受賞者を決定した。

f. Chapter Operations Committee

現存Chapterの活動を支援するとともに、Chapter新設への支援を行っている。具体的には、JC COCと連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter支援費、Section傘下への移行支援、国際会議実施でのMoU締結手続き、ソサイエティ別Section所属会員数の提供、petition作成支援等である。

g. Life Members Affinity Group

2月10日に年次総会を開催した。Chairに橋本正弘先生(元大阪電機通信大学)が、Vice-Chairに木戸出正継先生(元奈良先端科学技術大学院大学)が、Secretaryに小林正明氏(元三菱電機)が、それぞれ2015年役員として承認された。あわせて、2015年の活動計画案を示し、承認された。活動3年目としてLMAG活動を活性化させるべく、3回の現地技術講演会&見学会を、技術講演会の一環として関西支部TPCと共催して開催した。6月3日にマイルストーンを受賞した京大生存圏研究所MULレーダー観測所、9月24日に理化学研究所放射光科学総合研究センターにおいてSpring8とSACLAについての現地技術講演会&見学会、12月15日に京都大学大学院理学研究科附属花山天文台において太陽の脅威とスーパーフレアについての現地技術講演会&見学会、以上のそれぞれにおいて、LMAGが主体となって開催した。各講演会後に有志による懇親会を開催し、今後の進め方や教育のありかたなどを論議し、またメンバー間の親睦を深めた。これらにより現地技術講演会というスタイルがいつそう定着した。また、役員会は2015年度に3回開催した。第一回(2月10日、京都キャンパスプラザ)と第二回(6月9日、淀屋橋住友ビル)において、今後の進め方と運営内容について議論した。第三回(12月9日、淀屋橋住友ビル)では、今年の活動のまとめと来年の活動の具体化について議論した。6月と12月に「Kansai-LMAG Newsletter」を発行し、ホームページに掲載するとともに電子メールにて案内した。

h. WIE Affinity Group

(1) Kansai WIE シンポジウム

9月26日に大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて、「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2015 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。今年は Young

Professionals (YP) AG に共催いただき、企画・広報から協力して準備を行った。シンポジウムでは、橋本隆子氏 (IEEE WIE Chair)、Supavadee Aramvith 氏 (IEEE R10 WIE Coordinator) からのビデオメッセージに続き女性研究者による以下の講演が行われた。

- 女性という冠 (大阪工業大学 大須賀 美恵子 氏)
- 女性海外赴任のすすめ ～オランダ駐在を経て～
(オムロン株式会社 鍋籐 実里 氏)
- ものづくりの楽しさをたくさんの人に伝えたくて
(立命館大学田中 亜実 氏) (YP 企画)

シンポジウムの後半は、全員参加型のグループトークを行い、「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」をテーマにグループごとに意見交換を行った。参加者は 38 名で、内 IEEE 会員は 16 名であった。IEEE の非会員である若い世代の参加者も多く、シンポジウムの目的の一つである若い世代の女性に科学者・技術者の魅力を伝えることができたのではと思われる。

(2) 役員会

第1回 (3/26 同志社大学京田辺キャンパス)、第2回 (7/1 奈良先端科学技術大学院大学)、第3回 (8/17 奈良先端科学技術大学院大学)、第4回 (9/26 グランフロント大阪) と開催し、主にシンポジウムの準備や WIE の運営体制の検討を行った。また、10月7日には、来日中の Supavadee Aramvith 氏 (IEEE R10 WIE Coordinator) と交流会を兼ねた役員会を行い、WIE 活動に関する意見交換を行った。

(3) 協賛およびその他の活動

4/25 けいはんな市民雑学大学第79回講座 (協賛)

10/17 IEEE JC WIE 講演会 女性が拓く未来のテクノロジー

-Women In Engineering 2015-(協賛)

日本ソフトウェア科学会学会誌「コンピュータソフトウェア」へのエッセイ寄稿

(関西支部 WIE 紹介)

7/9-12 IEEE R10 Student/YP/WIE Congress 参加



IEEE Kansai WIE シンポジウム



Supavadee Aramvith 氏 (IEEE R10 WIE Coordinator) との交流会

i. Young Professionals Affinity Group

2015 年は、今後の活動の資となる経験を蓄えるために、主として共催等で WIE や SAC と連携して様々なイベントを開催した。実績例として立命館大学における英語プレゼンテーション大会では台湾からプレゼンターを 2 名招き、参加者のレベル向上を図った。また、YP 独自の賞を 3 つ (YP Research award, YP activity award, 及び YP contribution award)用意し学生の興味を引く構成にした。

2015 年活動状況

- (2015.03.11) 2015 年第 1 回 IEEE Kansai section YP AG meeting
- (2015.04.08) IEEE Kansai section YP banner 受領
- (2015.04.16) IEEE 本部からのデリゲーションに参加
- (2015.05.20) R10 YP Initiatives Grant 申し込み
 - ・英語プレゼンテーション大会の支援金
- (2015.05.27) IEEE MAW (Metro Area Workshop) in Tokyo
- (2015.06.18) 2015 年第 1 回 IEEE Kansai section MDC & SAC & YP joint workshop
- (2015.07.01) WIE シンポジウム企画会議
- (2015.07.06) 2015 年第 2 回 JC 理事会
- (2015.07.09-12) IEEE R10 Student YP WIE congress
- (2015.08.17) WIE シンポジウム企画会議
- (2015.08.21) R10 YP Initiatives Grant confirmation sheet 送付
 - ・英語プレゼンテーション大会の支援金獲得後の情報送付
- (2015.08.21) IEEE Kansai Section YP AG meeting 開催
- (2015.09.25) Tokyo YP エッセイコンテスト共催
- (2015.09.26) WIE シンポジウム共催
- (2015.10.16) Ritsumeikan university IEEE student branch
 - English presentation competition
- (2015.12.11) 2015 年第 1 回 IEEE Kansai section MDC & SAC & YP joint workshop



Ritsumeikan university IEEE student
English presentation competitio



IEEE R10 Student YP WIE congress

12. Kansai Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2月3日に IEDM2014 報告会を大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて開催し、2名の講師が同会議の参加者に対して、パワーデバイス・イメージセンサ関連および微細 FET 関連の技術情報についてご講演頂いた。その後、チャプター総会を開催した。

6月4日～5日には、国際会議 “2015 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2015)” を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催した (IEEE MTT-S 関西チャプターとの共催)。学生や若手研究者を中心に 110 名の方々に参加頂き、うち EDS は 5 件の招待講演 (Keynote: 1 件, Invited: 3 件)、14 件の一般講演及び 33 件のポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施した。また、本会議に先立って “Development history of blue light-emitting-diodes” と “Fundamentals and Applications of Microwave Technology” と題して 2 件、発光ダイオードの開発秘話およびマイクロ波デバイス応用に関するチュートリアル講演会を開催し、若手エンジニアや学生の方々に多数参加頂いた。EDS からは 1 件の Best Paper Award と 5 件の Student Paper Award を表彰した。

11月24日に大阪大学においてパワーデバイスの基礎に関する技術講演会を開催した。西村 正氏 (大阪大学) には、「パワーデバイスの初歩」と題して講演頂いた。また、細井卓治氏 (大阪大学) に「SiC パワーデバイス・モジュールの開発・実用化の現状」の講演を頂いた。

12月15日には関西コロキウム電子デバイスワークショップを大阪工業大学うめきたナレッジセンターで実施する予定である。講師には関西に職場住所を持つ企業・大学・公共機関が投稿した論文 (刊行期間: 2014 年 4 月から 2015 年 3 月) の中から特に優秀ものを 11 件選出して、国際レベルの研究成果を日本語および英語にて発表して頂き、IEEE EDS Kansai Chapter of the Year Award と IEEE EDS Kansai Chapter MSFK Award を表彰する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

3月10日に、ISSCC2015 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学 梅田インテリジェントラボラトリで開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

5月11～13日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2015” を北九州国際会議場で開催した。参加人数は 200 名であった。ポスター講演は 43 件あり、SSCS からは 2 件の Academic Research Award を表彰した。

6月22日に、2015 Symposium on VLSI Circuits 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京工業大学・蔵前会館で開催し、10名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は 76 名であった。また、同時開催講演会として UCLA の Asad Abidi 教授をお招きし、“Sampling Circuits: Unified treatment that describes sampling oscilloscope front-ends” という題目で講演会を実施した。

8月10～11日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会と IEEE SSCS Japan

Chapter, IEEE SSCS Vietnam Chapter と共催で、“The 2015 International Conference on Integrated Circuits, Design, and Verification (ICDV 2015)” を Ho Chi Minh city University of Sciences (HCMUS) で開催した。36 件の講演(招待講演、一般講演、ポスター講演含)があり、出席者は 80 名であった。

8 月 29～30 日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で、“VDEC デザイナーズフォーラム 2015”を山代温泉 ゆのくに天祥で開催した。講演者は 14 名、参加人数は約 46 名であった。SSCS Kansai Chapter からは学会運営支援費を拠出した。

2016 年 1 月 13 日に、IEEE A-SSCC 2015 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学 VDEC 武田先端知ビル・武田ホールにおいて開催し、10 名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2015 年は、3 件の技術講演会を実施し、その他にセミナーの共催を 1 件、国際シンポジウムや国内ワークショップの協賛 2 件、Administrative Meeting を 1 回実施した。特に 3 件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評だった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられた。詳細は以下のとおりである。

- 1) 1 月 22 日に幕張メッセ国際会議場で開催された IEEE CASS/CEDA Joint Seminar at 20th Anniversary of ASP-DAC を共催した。(参加者 60 名)
- 2) 7 月 24 日、京都工芸繊維大学において所 健一 氏(電力中央研究所)をお招きして、技術講演会『電力分野におけるシステム最適化の最近の話題 —電力用移動無線通信システムの周波数配置最適化を中心として—』を主催した。(参加者 83 名)
- 3) 7 月 24 日、京都工芸繊維大学にて Administrative Meeting を開催し、今後の活動内容やアクションアイテムについて協議した。(出席者 3 名)
- 4) 8 月 3～4 日に淡路夢舞台国際会議場で開催された第 28 回回路とシステムワークショップに協賛した。(参加者約 150 名)
- 5) 10 月 7～9 日 に奈良春日野国際フォーラム薨で開催された The 15th International Symposium on Communications and Information Technologies (ISCIT 2015) に協賛した。(参加者 121 名)
- 6) 11 月 13 日に大阪大学にて遠藤 哲郎氏と神山 恭平氏(明治大学)をお招きして、技術講演会『準周期解の分岐理論の構築とその多入力位相同期回路への応用』を主催した。(参加者 21 名)
- 7) 11 月 14・15 日に、神戸大学六甲台第 2 キャンパスで開催された第 58 回自動制御連合講演会に協賛した。
- 8) 12 月 1 日、京都工芸繊維大学にて NEC 情報・メディアプロセッシング研究所主席研究員の今岡仁氏をお招きして、技術講演会『高精度顔認証技術の開発と実用化』を主催した。

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、国際シンポジウムや国内ワークショップ等にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプターの活動をアピールすることもできた。また、役員間でミーティングやメール等による連絡を密に行い、今後の計画も練っている。

なお、実施したものや今後の予定については、詳細を次の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動するため、1月19日に第1回役員会を開催して本年の活動計画を策定した。

2月19日に、兵庫県尼崎市中心企業センターにて IEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演を主催し、佐藤 亨 教授(京大)より「南極大型大気レーダーPANSY」と題してご講演を頂いた。

5月21日に、奈良県社会福祉総合センターにて IEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演を主催し、Zhi Ning Chen 教授(NUS)より「Translational Research of Metamaterials in Antenna Engineering」と題してご講演を頂いた。

8月29日に、関西学院大学にて IEEE AP-S Kansai Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、関西学院大学 多賀 登喜雄 教授より「無線通信の高度化を支える伝搬解析技術 ―幾何光学計算による電波伝搬解析プログラムの基礎(実践プログラミング)―」と題してご講演を頂いた。参加者総数は35名であった。

10月23日に、山口県労協協会館にて IEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演を主催し、小西善彦 教授(広島工業大)より「衛星通信地球局アンテナの発展について」と題してご講演を頂いた。

12月19日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を関西大学において開催し、関西電機メーカー等の若手技術者に大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験を講演していただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、21件のポスター発表があり、活発な討論が行われた。参加者総数は88名であった。また、同日に第2回役員会を開催し、アンテナ部門と伝播部門の優れた発表に対して、それぞれ Best Presentation Award を贈呈した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

2015 年は 2 件の技術講演会の主催、1 件の技術講演会の共催を行った。

また COMS Kansai として、学生や若手研究者を主な対象とした通信技術の研究情報の提供を行い、研究講演の開催ならびに学生研究会を実施し会員獲得のための活動を行った。

1 つ目の技術講演会は、5 月 11 日に同志社大学京田辺キャンパスにて、Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) を開催した。IEEE Communications Society Distinguish Lecturer である北京大学の Dr. Tarik Taleb 教授に「Towards 5G: Carrier-Grade Programmable Virtual Mobile Networks」と題して講演して頂き、30 名 (うち会員 10 名) の参加者があった。

7 月 24 日には大阪工業大学うめきたナレッジセンターで、Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) を開催した。IEEE Communications Society Distinguish Lecturer である北京大学の Lingyang Song 教授に「Device-to-Device Communications」と題して講演して頂き、23 名 (うち会員 8 名) の参加者があった。

11 月 28 日には同じく、大阪工業大学うめきたナレッジセンターで、学生研究会を行った。TPC を構成し各プレゼンテーションの審査を行い、15 件の中から優れた発表者 1 名に Award を贈呈した。

広報活動を活性化するため Facebook

<http://www.facebook.com/IEEEComSocKansaiChapter>

を利用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は以下の URL により提供している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2015 年は 2 件の技術講演会的主催を行った。具体的には次のとおりである。

2015 年 5 月 29 日 (金) に、京都大学に於いて、自動車のサイバーセキュリティというテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「Journey through the vehicle security landscape」と題して、イータス株式会社の岡・デニス・健五氏にご講演頂いた。自動車のネット接続がもたらすセキュリティ脅威とその対策に関する動向について、ご紹介をいただいた。2 件目は「自動車に求められるセキュリティ対策技術」と題して、名古屋大学の倉地氏にご講演頂いた。従来の情報セキュリティ対策がそのまま適用できない車載制御システムに関する課題に触れ、現在の最新の車載制御システムを保護する技術について、ご議論頂いた。講演会では、50 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2015 年 10 月 16 日 (金) に、京都大学に於いて、「人工知能における自然言語処理技術の動向」をテーマに 2 件の講演を行った。1 件目は、「知的に振る舞うコンピュータと自然言語処理」と題して、日本電信電話株式会社の松尾氏にご講演頂いた。AI を構成する中心的な要素と考えられている自然言語処理技術について、これまで担ってきた事と、今後の役割についてご議論

頂いた。2 件目は、「知識に基づく構造的言語処理の確立と知識インフラの構築」と題して、京都大学の黒橋氏にご講演頂いた。さまざまな知的言語処理システムが人々の生活に浸透し始める中で、講演者の推進する知識に基づく頑健で高精度な構造的言語処理の構築を目指すプロジェクトについて、ご紹介頂いた。講演会では、48 名の参加者を集めて、講演者と参加者での議論が活発に行われ、自然言語処理技術を含む AI 技術の関心の高さが伺われた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会等の詳細は下記の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

I. Technical Meetings

主催/共催

1. 講演会(主催)車載ワイヤレス技術の最新動向ワークショップ
 - ①演 者: 福島 正夫(日産自動車株式会社)、
演 題: 自動走行の研究開発動向と無線の役割
 - ②演 者: 山口 弘純(大阪大学)
演 題: ITS における V2R および V2V 通信プロトコルの動向と応用
 - ③演 者: 岸田 正幸(富士通テン株式会社)
演 題: ミリ波レーダーの技術動向
 - ④演 者: 木村 祥久(株式会社村田製作所)
演 題: コネクティビティ技術の動向と車載市場への展開
年月日/会場: 2015 年 1 月 31 日 / 龍谷大学セミナーハウスともいき荘
出席者数: 99 名
2. 発表練習会(共催): IMS/RFIC/ARFTG2015 発表練習とアドバイスの会
年月日/会場: 2015 年 5 月 1 日 (金) 九州大学東京オフィス(東京都千代田区)
3. 国際会議(共催)2015 International Meeting for Future of Electron Devices Kansai
年月日/会場: 2015 年 6 月 4~5 日 龍谷大学アバンティ饗都ホール
発表件数: 本 Chapter からチュートリアル講演 1 件、般講演 3 件
4. 第 8 回マイクロ波英語発表会(主催)
年月日/会場: 2015 年 6 月 13 日 同志社大学今出川キャンパス
発表件数: 24 件、参加者数 53 名(会員 31 名、非会員 22 名)
5. 講演会(共催)IEEE MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter DML 講演会
 - ①演 者: Smart RFIC: Millimeter-wave Gigabit Transceivers with Digitally-enabled Built-in Self-calibration and Auto-switching Functions
演 題: Prof. Tian-Wei Huang, National Taiwan University
 - ②演 題: Prof. Madhu S. Gupta, University of California, San Diego
演 者: Microwave Engineering: What is it, where is it

③演 者: Prof. Takashi Ohira, Toyohashi University of Technology

演 題: Welcome to kQ Theory for Wireless Power Transfer

年月日/会場: 2015 年 9 月 22 日(火) ハイアット リージェンシー 京都

出席者数: 46 名

6. 講演会(主催)窒化物半導体デバイスの実現とマイクロ波分野への波及ワークショップ

①演 者: 竹内哲也 名城大学

演 題: 青色 LED の発明と新規光デバイスへの展開

②演 者: 井上和孝 住友電気工業株式会社

演 題: 携帯基地局用 GaN HEMT の開発

③演 者: 山中宏治 三菱電機株式会社

演 題: GaN パワーデバイスの新展開 ーレーダー、マイクロ波加熱などー

④演 者: 大野泰夫 株式会社レーザーシステム

演 題: マイクロ波無線電力伝送と GaN ショットキーバリアダイオード

年月日/会場: 2015 年 10 月 17 日/龍谷大学セミナーハウスともいき荘

出席者数: 45 名

7. 講演会(主催)第 5 世代移動通信(5G)と無線技術

①演 者: 第 5 世代移動通信(5G)の実現に向けて

--- 第 5 世代モバイル推進フォーラムの活動のご紹介 ---

演 題: 吉田進 京都大学

②演 者: 5G 実現に向けたドコモの取り組みと高周波数帯 Massive MIMO 技術

演 題: 須山聡 株式会社 NTTドコモ

③演 者: 高効率電力増幅器の技術動向と第五世代モバイル基地局への貢献

演 題: 金子友哉 日本電気株式会社

④演 者: 5G の技術と計測ソリューション

演 題: 森下幹夫 キーサイト・テクノロジー合同会社

年月日/会場: 2015 年 11 月 21 日/京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 60 周年記念館

出席者数: 61 名

8. 発表練習会(共催): APMC2015 発表練習とアドバイスの会

2015 年 11 月 24 日(火) 機械振興会館 会議室 6-60

9. 2014 IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award 授与式(共催)

年月日/会場: 2015 年 11 月 26 日(木) パシフィコ横浜

10. IEEE AP-S Kansai Chapter and IEEE MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2015(主催)

年月日/会場: 2015 年 12 月 19 日(土)/関西大学高槻キャンパス 大学院棟

II. 協 賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2015 年 1 月 15-16 日 (機械振興会館)
2015 年 3 月 5-6 日 (福井大学)
2015 年 4 月 16-17 日 (機械振興会館)
2015 年 5 月 28-29 日 (電気通信大学) 予定
2015 年 6 月 25 日 川崎市産業振興財団
2015 年 7 月 16-17 日 釧路市生涯学習センター
2015 年 9 月 16-17 日 小山工業高等専門学校
2015 年 10 月 22-23 日 東北大学

2. URSI-C 小委員会 第 23 期公開研究会

第 1 回 2015 年 3 月 27 日 (名古屋工業大学)

3. 日本電磁波エネルギー応用学会

2015 年 3 月 24 日 京都大学・桂イノベーションセンター

4. テラヘルツ応用システム研究会

2015 年 1 月 30 日 株式会社国際電気通信基礎技術研究所(京都府)

5. 2015 Thailand-Japan MicroWave (TJMW2015)

2015 年 08 月 06 日(木)~08 月 08 日(土) 場所: タイ、チュラロンコン大学

6. 2015 Vietnam-Japan MicroWave (VJMW2015)

2015 年 08 月 10 日(月)~08 月 11 日(火) 場所: ベトナム、ホーチミン科学大学

7. 第 9 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

2015 年 11 月 18(水)~11 月 20 日(金)、場所: 上智大学

8. 2015 Microwave Workshops and Exhibition

2015 年 11 月 25 日(水)~11 月 27 日(金) パシフィコ 横浜

III. Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会

- ①年月日/会場: 2015 年 1 月 31 日 / 龍谷大学ともいき荘 出席者数: 9 名
- ②年月日/会場: 2015 年 9 月 1 日 / Teleconference 出席者数: 8 名
- ③年月日/会場: 2015 年 10 月 17 日 / 龍谷大学ともいき荘 出席者数: 7 名
- ④年月日/会場: 2015 年 11 月 21 日 / 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 出席者数: 5 名
- ⑤年月日/会場: 2015 年 11 月 30 日 / Teleconference 出席者数: 8 名

4. JC/KC/NC 合同役員会

- ①年月日/会場: 2015 年 3 月 10 日 / 立命館大学 BKC キャンパス 出席者数: 16 名
- ②年月日/会場: 2015 年 8 月 28 日 / 東北大学通信研究所本館 出席者数: 8 名

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Technical Meeting としては、1 月 29 日(木)に、大阪大学豊中キャンパスシグマホールにおいて IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、川上養一教授(京都大学)をお招きして、「窒化物半導体の光物性解明と制御 一波長フロンティア開拓に向けて」という題目でご講演いただいた。参加者は 105 名であった。また、翌 30 日(金)も含む 2 日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 OPE, LQE, PN, MWP, EST 各研究会および電気学会 EMT 研究会との光関連合同研究会に協賛した。発表件数は計 62 件、のべ参加者は約 180 名とかなりの盛況であった。

10 月 14 日(水)には、京都工芸繊維大学において「IEEE Photonics Society Kansai Chapter 国際光年記念講演会」を主催、野田進教授(京都大学)から「フォトニック結晶による光制御の現状と将来展望」、また河口仁司名誉教授(奈良先端科学技術大学院大学)から「半導体光非線形機能デバイスと通信への応用」という題目でご講演いただいた。参加者は 100 名であった。

10 月 10 日(土)には、京都工芸繊維大学において「第 1 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。10 名の学生による英語での発表があった。参加者は 20 名であった。予想以上に活発な議論があり、好評であった。

Administrative Meeting としては、1 月に大阪大学において、10 月には京都工芸繊維大学で役員会を開催、年間活動方針、ワークショップ運営について協議した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2015 年は IEEE 内外との連携により、10 件の Technical Meeting ならびに 1 件の Professional Meeting を開催するとともに 4 件の学生賞の表彰を実施した。

具体的には、以下のとおりである。

1. 講演会(共催)
日程: 2015 年 02 月 26 日(木)
場所: 関西大学千里山キャンパス
講演者: Prof. Stephen J. Elliott (ISVR University of Southampton, UK)
講演題目: Active control of sound in vehicles and in the ear
出席者: 76 名
2. 講演会(共催)
日程: 2015 年 03 月 02 日(月)
場所: 南の美ら花ホテルミヤヒラ
講演者: 篠田浩一 教授(東京工業大学)
講演題目: 統計的パターン認識のための中間表現
出席者: 136 名

3. 講演会(共催)
日程: 2015 年 6 月 23 日(火)
場所: 関西大学千里山キャンパス第四学舎 3 号館 3403 教室
講演者(1): 西村正治 教授(鳥取大学)
講演題目(1): Active Noise Control by Decentralized System
講演者(2): 前田 裕 教授(関西大学)
講演題目(2): Simultaneous perturbation method and its applications
講演者(3): Prof. Cheng-Yuan Chang (Chung-Yuan Christian University, Taiwan)
講演題目(3): Recent Topics about Active Noise Control Theory and Applications
Developments in CYCU
出席者: 90名
4. 第 28 回 回路とシステムワークショップ(協賛)
日程: 2015 年 8 月 3 日(月)~4 日(火)
場所: 淡路夢舞台国際会議場
主催: 電子情報通信学会基礎境界ソサイエティ システムと
信号処理サブソサイエティ
出席者: 222名
5. 講演会(共催)
日程: 2015 年 8 月 6 日(木)
場所: 関西大学千里山キャンパス第四学舎 3 号館 3402 教室
講演者: Prof. Maciej Jan Niedzwieki (Gdansk University of Technology, Poland)
講演題目: Self-optimizing Active Noise Control
出席者: 51名
6. 講演会(共催)
日程: 2015 年 8 月 20 日(木)
場所: 国立情報学研究所
講演者: Prof. Mark Liao (Institute of Information Science, Taiwan)
講演題目: Tactics Analysis on NBA Broadcast Videos
出席者: 53名
7. Luncheon Meeting for IEEE SPS Membership Development
日程: 2015 年 8 月 20 日(木)
場所: 国立情報学研究所
司会: IEEE SPS Region 10 Director Mark Liao
出席者: 8名
8. 講演会(共催)
日程: 2015 年 9 月 19 日(土)
場所: 会津大学
講演者: Dr. Heiga Zen (Google, UK)
講演題目: Acoustic Modeling in Statistical Parametric Speech Synthesis - from
HMM to LSTM-RNN
出席者: 62名

9. 講演会(共催)
 日程: 2015 年 10 月 07 日(水)
 場所: 京都大学 総合研究 7 号館 第 3 講義室(吉田キャンパス)
 講演者: Prof. Nigel Ward (University of Texas at El Paso; Visiting Professor, Kyoto University)
 講演題目: Human Activity Recognition, User State Inference, and Behavior Pattern Discovery: Lessons from the Prosody of Dialog
 出席者: 60名
10. Oriental COCOSDA/CASLRE Conference(共催)
 日程: 2015 年 10 月 28 日~30 日
 場所: 上海(中国)
 ウェブページ: <http://www.ococosda2015.org/>
 出席者: 130名
11. Distinguished Lecturer 講演会(共催)
 日程: 2015 年 11 月 5 日
 場所: スパリゾートハワイアンズ(福島県いわき市)
 講演者: Prof. Biing-Hwang (Fred) Juang (Georgia Institute of Technology, USA)
 講演題目: Problems and Innovations in Signal and Information Processing --- Early History and Inspiration
 出席者: 254名

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award および IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award を実施し、受賞者各 2 名を 2015 年 11 月に表彰した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 研究会(主催)
 内容: West Japan Joint Chapter となって初めての研究会を開催した。発表件数は 11 件。山口大学、名工大等からの発表があった。
 2015 年 1 月 23 日 海峡メッセ下関
 出席者数: 14 名
2. 国際会議(主催)
 内容: 国際会議 GCCE(Global Conference on Consumer Electronics) 2015 を開催した。CE Society の Vice President・長谷教授(龍谷大学、前 Chair)が立ち上げられた学会。毎年 10 月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催し、CES West Japan Chapter が Host Chapter をつとめる。今まではアジア最大級の最先端 IT・エレクトロニクス総合展

の CEATEC (Combined Exhibition of Advanced Technologies)に併設して開催していたが、今年は大阪で開催。GCCE2015 の運営主体は CE-08 West Japan Chapter で、主たる役割はその会員で行なった。Conference Chair は後藤氏(名古屋工業大学)と山口氏(山口大学)。

2015 年 10 月 27 日-10 月 30 日 大阪国際会議場

出席者数: 350 名

3. 国際会議(共催)

CE Society の共催(Technical Sponsor)により、国際会議 2015 TRON Symposium を開催した。12 月 9 日から 11 日に、同場所で開催の TRONSHOW 2015 のプログラムの一環として開催され、5 件の講演発表があった。この国際会議の運営に、長谷教授が Vice Chair を務めた。

2015 年 12 月 10 日 東京ミッドタウン

出席者数: 100 名余り

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. Chapter 役員会(第1回)

GCCE 2015 の進め方および 2015 年度の役員に関して打合せを実施した。

年月日/会場:2015 年 1 月 23 日/海峡メッセ下関 出席者数: 3 名

2. Chapter 役員会(第2回)

GCCE 2015 の進め方に関して打合せを実施した。

年月日/会場:2015 年 7 月 18 日/名古屋工業大学 出席者数: 3 名

3. Chapter 役員会(第3回)

本年の総括と来年度の計画に関して打合せを実施した。

年月日/会場:2015 年 10 月 26 日/大阪国際会議場 出席者数: 3 名

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Technical Meetings

I. CSS 主催行事

1. The 54th IEEE Conference on Decision and Control (CDC) (2015/12/15-18)

CSS の年次大会である Conference on Decision and Control (CDC) が、2015 年度は大阪で開催される。この CDC の開催に際し、CSS Kansai Chapter 役員からは Chapter Chair 萩原朋道(京都大学)が Finance Chair として、Chapter Vice Chair 藤崎泰正(大阪大学)が Local Arrangements Chair として Organizing Committee に参加。さらに CSS Kansai Chapter では Local Committee for CDC 2015 を組織し、Organizing Committee の活動をサポート。

Local Committee for CDC 2015 Member:

加嶋健司(京都大学, Chapter Treasurer)

蛭原義雄(京都大学, Chapter Secretary)

東俊一(京都大学)

原尚之(大阪府立大学)

林直樹(大阪大学)

永原正章(京都大学)

大木健太郎(京都大学)

和田孝之(大阪大学)

II. 主催行事

1. 講演会 (2015/12/9)

講演: A Unified View of Sampled-Data Control Systems

講師: Jose C. Geromel 教授 (UNICAMP, Brazil)

III. 共催行事

1. 講演会 (2015/4/14)

講演: Minimal Information for Real-time Estimation and Control:
A Semidefinite Programming Approach

講師: Takashi Tanaka 博士 (Postdoctoral Associate, LIDS, MIT)

IV. 協賛事業

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2015/1/16)

2. 計測自動制御学会 第1回制御部門マルチシンポジウム (2015/3/4-7)

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座「コンピュータシミュレーション技術の過去・現在・未来」
(2015/6/18)

4. 第58回自動制御連合講演会 (2015/11/14-15)

5. The 46th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its
Applications (2015/12/5-8)

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第1回役員会 (2015/3/6)

2. 第2回役員会 (2015/5/22)

3. 第3回役員会 (2015/9/9)

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. パワーエレクトロニクス学会定例研究会(共催)
年月日／会場:2015 年 4 月 18 日 中央電気倶楽部
発表件数:4 件
出席者数:99 名
2. パワーエレクトロニクス学会定例研究会(共催)
年月日／会場:2015 年 6 月 20 日 大阪府立大学
発表件数:6 件
出席者数:76 名
3. パワーエレクトロニクス学会定例研究会(共催)
年月日／会場:2015 年 8 月 1 日 広島工業大学 五日市キャンパス
発表件数:6 件
出席者数:40 名
4. パワーエレクトロニクス学会定例研究会(共催)
年月日／会場:2015 年 10 月 3 日 同志社大学 室町キャンパス
発表件数:7 件
出席者数:68 名

II. 協 賛

地球創造学会講演会、「2030 年からのメッセージ」

日時 2015 年 11 月 30 日(月) 第 1 部 13:30～15:30、第 2 部 16:00～20:00

場所 新横浜国際ホテル マナーハウス内会場

Chapter 支援費利用事業

IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award
(2015 年 4 月 18 日実施)

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 2014 年度に開催された第 202 回から第 206 回までのパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から, 35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し, 副賞として図書カード 1 万円分を授与した.

主旨:(B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳:副賞(1 万円)／件×1 件

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

2015 年は, Magnetic Society Kansai/Shikoku Chapter の立ち上げを行い, 役員を選任, Chapter 活動を開始した. 活動状況は以下の通り.

1. 10 月 30 日に, 第 1 回の関西四国磁性研究会を大阪大学にて開催し, 7 件の口頭発表が行われた. 15 名の参加者による活発な討論が実施された.
2. 10 月 30 日, 大阪大学にて役員会を開催し以後の運営方法に関する協議を実施した.
3. 11 月 17 日 愛媛大学にて役員会を開催し, 関西地区と四国地区との交流方法, 次回講演会の開催について協議を行った.
4. 11 月 27 日には, 中央大学において日本磁気学会第 68 回ナノマグネティックス専門研究会を共催した. 4 件の講演があり, 15 名の参加者があった.
5. その他, 日本磁気学会等主催の 7 件の研究会を協賛した.

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況(12月末)

○会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Grand Total
2008	0	26	51	7	103	35	1,497	94	181	116	2,110
2009	0	29	49	5	97	38	1,526	109	212	122	2,187
2010	0	33	51	5	100	41	1,563	89	194	120	2,196
2011	0	37	49	7	114	44	1,556	105	221	144	2,277
2012	0	39	44	9	120	48	1,588	83	310	70	2,311
2013	1	40	38	11	119	54	1,620	62	280	122	2,347
2014	1	41	33	14	123	58	1,594	60	265	98	2,287
2015	1	43	33	18	130	62	1,570	54	247	87	2,245

Grade code H: Honorary member,
 LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member,
 AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

○会員数と内訳(集約版)

Year	Higher Grade	Members	Students	Total
2008	187	1,807	116	2,110
2009	180	1,885	122	2,187
2010	189	1,887	120	2,196
2011	207	1,926	144	2,277
2012	212	2,029	70	2,311
2013	209	2,016	122	2,347
2014	212	1,977	98	2,287
2015	225	1,933	87	2,245

Grade code Higher Grade: H, LF, F, LS, SM
 Members: LM, M, AM, GSM
 Students: StM

(グレーの枠は前年より人数の減少があるカテゴリ)

ルネサスエレクトロニクスの北伊丹事業所閉鎖に伴い、MDC からも委員が抜けることとなった。ルネサスエレクトロニクスからは 2014 年末時点で約 30 名の会員が所属していたため、その分の会員が関西支部から抜けたこととなる。そのため例年に比べ会員数の減少幅が大きい。

○月ごとの会員数の推移

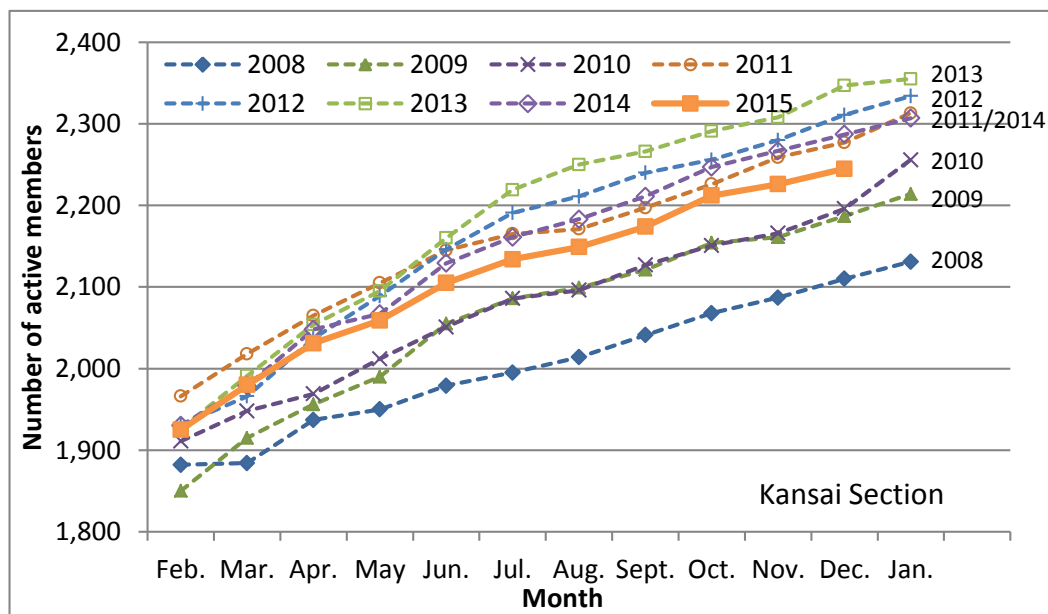
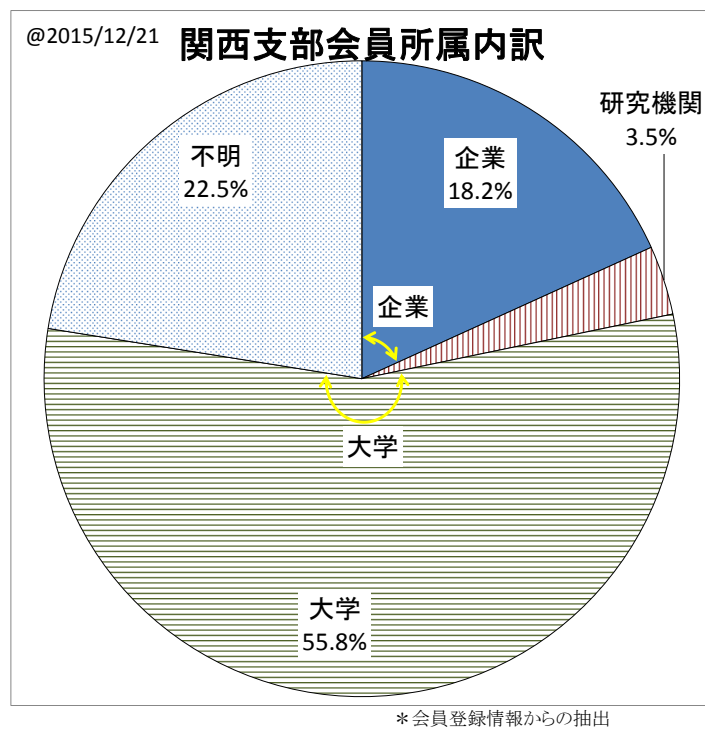


図 1. 会員数の月別推移

○会員の所属区分け



企業会員が 16%、大学が 57%と圧倒的に大学に所属する会員比率が高い。
企業会員の増強が重要な課題となっている。

2. ソサイエティ別会員数

2016/1/9 現在

Membership or Pub Code	Membership or Pub Name	Count of Members	Chapter構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
C016	Computer Society	404	関西単独						◎			
COM019	Communications Society	202	関西単独						◎			
EMB018	Engineering in Medicine and Biology Society	193	東京Joint	○	○	○	◎	○	○			
ED015	Electron Devices Society	186	関西単独						◎			
RA024	Robotics and Automation Society	155	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SP001	Signal Processing Society	153	関西単独						◎			
MTT017	Microwave Theory and Techniques Society	143	関西単独						◎			
SSC037	Solid-State Circuits Society	131	関西単独						◎			
CAS004	Circuits and Systems Society	125	関西単独						◎			
SMC028	Systems, Man, and Cybernetics Society	97	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○		○
CS023	Control Systems Society	91	関西単独						◎			
CIS011	Computational Intelligence Society	89	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PHO036	Photonics Society	85	関西単独						◎			
PEL035	Power Electronics Society	64	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	
AP003	Antennas and Propagation Society	63	関西Joint						◎	○	○	
IE013	Industrial Electronics Society	54	関西Joint	○	○	○	○	○	◎	○	○	○
PE031	Power & Energy Society	52	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IA034	Industry Applications Society	49	未申請						◎			
UFFC020	Ultrasonics, Ferroelectrics, and Frequency Control Society	48	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IT012	Information Theory Society	43	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
VT006	Vehicular Technology Society	40	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
MAG033	Magnetics Society	39	関西Joint						◎	○		
CPMT021	Components, Packaging, and Manufacturing Technology Society	28	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
NPS005	Nuclear and Plasma Sciences Society	27	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CE008	Consumer Electronics Society	26	関西Joint					○	◎	○	○	○
EMC027	Electromagnetic Compatibility Society	21	東京Joint	○		○	◎	○	○	○	○	○
OE022	Oceanic Engineering Society	19	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
ITSS038	Intelligent Transportation Systems Society	18	未定									
AES010	Aerospace and Electronic Systems Society	17	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
E025	Education Society	16	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
TEM014	Technology and Engineering Management Society	16	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
DEI032	Dielectrics and Electrical Insulation Society	14	東京Joint	○	○		◎	○	○	○	○	○
GRS029	Geoscience and Remote Sensing Society	13	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IM009	Instrumentation and Measurement Society	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
RL007	Reliability Society	9	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
BT002	Broadcast Technology Society	4	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SIT030	Society on Social Implications of Technology	2	未申請									
PSE043	Product Safety Engineering Society	1	予定なし									
	合計	2748										

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2016 年 活動計画

1. 総会

2016 年 2 月 2 日 (火) 15:00～17:30 の予定で、定例総会を実施する。

2. 理事会

第 1 回理事会 1 月 18 日 立命館大学梅田キャンパス

・2016 年活動計画 ・2016 年各 Committee の活動計画 ・2016 年予算(案)

第 2 回理事会 2 月 2 日 キャンパスプラザ京都

・2016 年総会について

2016 年中に、合計 6 回の理事会を開催する予定である。

3. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、年間 5 回以上の講演会を実施する。

4. IEEE マイルストーン

関西支部から推薦された IEEE マイルストーンの認定式典を実施する。

5. 関西支部 Young Professionals 賞

2015 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6. 関西支部学生研究奨励賞

2015 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

7. 関西支部メダル

2015 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に関西支部メダルを授与する。

8. Region 10 Meeting

2016 年 3 月 5 日(土)～ 6 日(日)の日程でタイのバンコックで開催される Region 10 Meeting には、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

9. Histelcon 2017 準備活動

2017 年 8 月 7,8 日に兵庫県立大学で IEEE Japan Council の History Committee 主催で開催される Histelcon2017 に、関西支部も共催する予定となっており、その準備活動を行う。

10. 各 Committee 活動計画

a. Membership Development Committee

2016 年は、本年と同様の方針で会員増に向けた活動を行う。特に、2016 年は IEEE MAW が関西で開催されることもあり、MAW の広報も兼ねて、MDC&SAC に委員を出していない会員数が多い組織に声をかけ、新たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

- MDC/SAC/YP Joint Workshop 開催
 - 第 1 回:5 月頃、第 2 回:11 月頃
- シニアメンバーへのアップグレードサポート
- IEEE のポスターやパンフレットなどを学会などで適宜配布して入会を呼びかける
- Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防ぐ
- その他
 - 2016 年 8 月:IEEE MAW で会員増に向けた働きかけ

b. Nominations Committee

2016 年 3 月 1 日締め切りの 2017 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、神戸大学、関西学院大学等を対象に SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同する形で)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

2015 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2016 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

e. Awards Committee

2015 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。特に、Young Professionals 賞については、応募数が例年少ないため、研究業績だけでなく関西支部への多様な貢献が表彰理由になる点をより強調することや、過去に選に漏れた方の再応募を積極的に促すなど、応募への心理的な妨げを減じる方策を検討する。

また、学生や若手技術者が会員となる契機となるように、賞の存在をより広く周知する手段を講じる。

f. Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。

g. Life Members Affinity Group

2016 年は活動 4 年目として、活動をより活発化させる。2015 年同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会(現地技術講演会も含む)を開催する。同時に YP や SB との連携・交流を、連携先の諸活動に LMAG メンバーが参加してそれらの活動を盛り上げることにより、活発化させる。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内する。

h. WIE Affinity Group

- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。
- ・ Student Branch, YPs, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. YP Affinity Group

2016 年は、2015 年で培ったイベント開催等の知見を基に独自のイベントを立ち上げ、YP 活動の利点を広く周知する。そして関西地区の若手研究者・技術者間の交流を促進し、キャリアアップ等につなげていく予定である。更に YP の活動を通して IEEE 新規会員の増加にも力を入れる。

- (1) 2015 年に行った、MDC とのワークショップ、WIE シンポジウム、Tokyo YP とのエッセイコンテスト、Ritsumeikan SB との英語プレゼンテーション大会等共催イベントを引き続き行う。
- (2) 2016 年前半に単度のイベントとして、関西地区の工場見学を行う。また参加者である若手研究者、及び技術者間の交流を図る。
- (3) Kansai MAW に対して開催の協力をを行い御ワークショップを成功に導くための力となる。
- (4) コンテスト等受賞者が出せる様なイベントを企画する。
- (5) 異分野の若手研究者、及び技術者を集めて、気軽に話せるような交流会を企画する。
- (6) YP のイベントに参加した会員に声をかけ、新たに IEEE 会員を増やすことで IEEE Kansai の活性化を狙う。

11. Kansai Chapter 活動計画

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2016 年も技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

1 月下旬には、IEDM2015 報告会を開催し、数名の講師が同会議の参加者にシリコンデバイス／プロセス関連および化合物デバイス、モデリング・信頼性関連の技術情報についてご講演頂く。同日、EDS 関西チャプター総会を開催予定である。

年半ばには国際会議である“2016 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2016)”を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。また、本会議に先立って、2 件のチュートリアル講演会を開催する計画である。

10 月には注目されている分野の専門家を招いた技術講演会および 11 月には技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを開催し、講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2016 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。7 月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2016 年も 2015 年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、5月と11月の2回のIEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演と、8月に次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、12月にMTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的とする。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年度と同様の活動を計画しており、7月頃に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。11月に大学院生や学部学生を対象としたIEEE COMS Kansai International Student Workshopを開催することを予定している。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2016年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。一方、著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせた講演会について、2015年では実現できなかったが、2016年は開催して行きたい。2015年は国外研究者の講演会の協賛を行った。2016年も関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2016年も、策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。また、2017年および2018年に国内で開催予定の国際会議、ICMIM2017、APMC2018の開催準備を、Japan Chapter、Nagoya Chapterと協力して進める。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き両 Chapter と共同で行う。また、2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

2016 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 28 日には、例年通り電子情報通信学会の LQE/OPE/EMT/EST/MWP/PN/PEM 合同研究会(神戸市)と併催の形で、2 件の特別招待講演(塚本教授(阪大)「窒化物半導体の光物性解明と制御 ～波長フロンティア開拓に向けて～ものづくりの未来を拓くレーザー加工技術開発」、松原孝宏氏(京セラ)「光配線・実装技術の開発動向」)を主催するほか、年間を通じてもう 1~2 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。2015 年に初めて開催して好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2016 年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で 2 件の学生賞の表彰を実施するとともに、学生が積極的に行事に参加するよう促し、新しい会員の獲得に努める。SPS は、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。さらに、産業界を対象としたイベントやソーシャルネットワークを活用した広報活動についても検討していく。

j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

2015 年に引き続き、10 月 11~14 日にメルパルク京都において国際会議 GCCE 2016(主催)を開催する。GCCE 2016 では Paper Award、Poster Award および Demo Award 等の表彰を通じて新規会員の獲得に努めるとともに Senior Member Elevation Event を開催し、更なる昇格を支援する予定である。また 12 月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2016 TRON Symposium (CE Society の共催(Technical Sponsor))を開催する。この国際会議の運営に、長谷教授が Vice Chair を務める。さらに 1 月 22 日に海峡メッセ下関において研究会(主催;申込み 11 件)、3 月にキャンパスプラザ京都で長谷氏 IEEE Fellow 昇格記念講演会を開催する。また技術講演会を企画する。これにより質の高い技術情報の提供を行い、会員獲得につなげる。CES は、対象が民生機器およびその応用と広範囲に及ぶため、他学会や研究会との積極的な連携を図り、行事に取り組む予定である。

長谷氏(龍谷大学)が Board of Governor(2016-2018 年)に再選された。すでに委員の野中氏(湘南工科大学;2015-2017 年)とともに、日本からは二人体制で活動を推進していく。

若手会員の研究奨励と会員増加のために当支部がホストを努める国際会議 GCCE において優秀な発表を行った研究者を奨励する。

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定である。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2016/1/17)
2. 計測自動制御学会 第3回制御部門マルチシンポジウム (2016/3/7-10)
3. ISCIE・SICE チュートリアル講座
4. The 48th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
5. 第59回自動制御連合講演会

l. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4月、6月、8月、10月、12月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2016 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2016 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表表彰を授与する。

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に技術講演会の開催や、学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。

具体的には、5月－6月に四国地区において、基調講演と学生のポスター発表会をメインとした研究会を開催する予定である。また定期的に日本磁気学会研究会等を共催・協賛するほか、Distinguished Lecturer を招いての DL Meeting を開催する予定である。合わせて会員への情報提供のため、HPの開設、充実を図る。

VII. 2015 年 会計報告

収入の部

(単位:円)

予算案@110 円/\$ 実績 予算比

IEEE Entity 間勘定	5,673,288	6,413,261	113%	
Section Rebate (IEEE 本部より)	1,330,010	1,674,169	126%	\$13,875.10【110→120.66 円/\$】
Section Assessment 2015 (同上)	4,203,278	4,473,262	106%	\$37,227.48, @117.94 円/\$ (前期)、 \$694.86, @118.95 円/\$ (後期)、 【円安により増加】
SB Rebate	0	118,176	-	\$972.00, @121.58 円/\$
LMAG 支援費	30,000	46,676	156%	\$390.14, @119.64 円/\$ (2014 年分)
WIE 支援費	80,000	88,828	111%	\$250.00, @121.51 円/\$ (R10 WIE Support Fund)、 \$500.00, @116.90 円/\$ (R10 WIE Support Fund, 2014 年分)
YP 支援費	30,000	12,151	41%	100.00 \$, @121.51 円/\$ (R10 YP Initiatives Grant)
その他	1,447,782	1,590,714	110%	
Section 支援費 (YP Award メダル)	17,542	17,542	100%	2014 年 11 月申請分, 1 個
Section 支援費 (学生研究奨励賞)	220,000	220,000	100%	2014 年 11 月申請分, 10 名
Section 支援費 (支部メダル)	180,240	180,240	100%	2014 年 11 月申請分, 20 個
Section 支援費 (WIE 支援)	50,000	50,000	100%	WIE Symposium
Section 支援費 (Student Branch 支援)	100,000	200,000	200%	2014 年 10 月申請分, 表彰費
Section 支援費 (Milestone 経費)	50,000	0	0%	JC により否認
Milestone Plaque 費	700,000	726,232	104%	京都大学 (3 個), 三菱電機 (2 個)
懇親会費徴収	130,000	195,000	150%	総会懇親会 (@5,000 円 × 39 名)
利息	0	1,700	-	
小計	7,121,070	8,003,975	112%	
2014 年からの繰越金	2,066,640	2,066,640	100%	
合計	9,187,710	10,070,615	110%	

支出の部

(単位:円)

予算案@110 円/\$ 実績 予算比

IEEE Entity 間勘定	4,457,278	4,505,754	101%	
Japan Council 拠出金	4,200,278	4,023,788	96%	入金額 - 10% - 1,716 円 (手数料)
Chapter Rebate	257,000	363,790	142%	\$220x12+\$75x5=\$3,015, @120.66 円/\$
SB Rebate	0	118,176	-	京都大, 大阪大, 奈良先端大, 立命館大, 関西大, 同志社大
会合・Award 費	2,307,782	2,602,398	113%	
総会費	250,000	320,490	128%	資料代, 懇親会費等【懇親会費用がやや増加】
講演会	50,000	0	0%	5 名分
理事会費	200,000	152,470	76%	会場代, 飲食代【会場代抑制】
Committee 会合費	250,000	169,731	68%	MDC/SAC/YP 会議, 東京 MAW 旅費
YP Award 費	17,542	29,170	166%	メダル代 (1 個)
学生研究奨励費	220,000	227,242	103%	副賞, 賞状代 (10 名)
支部メダル費	180,240	402,115	223%	メダル代 (20 個)
Student Branch 支援費	100,000	274,771	275%	English Presentation Competition 【学生交流会を追加支援】
LMAG 支援費	30,000	43,200	144%	LMAG 現地講演会
WIE 支援費	130,000	114,177	88%	WIE Symposium, バナー
YP 支援費	130,000	123,487	95%	MDC/SAC/YP (2014 年未払い分), バナー
Milestone 経費	50,000	24,343	49%	MU Radar
Milestone Plaque 費	700,000	717,953	103%	MU Radar
2016 MAW 関西 準備費	0	3,249	-	2016 MAW 関西 実行委員会費
事務経費	42,000	33,133	79%	
外部監査費	0	0	-	外部監査不要
事務用品費	2,000	10,845	542%	ファイル等
旅費	20,000	11,600	58%	学生研究奨励賞 交通費補助
通信費	20,000	10,688	53%	郵送費, 宅配便等
雑費	25,000	27,635	111%	為替手数料, 振込手数料等
小計	6,832,060	7,168,920	105%	
2016 年への繰越金	2,355,650	2,901,696	123%	
合計	9,187,710	10,070,615	110%	

VIII. 2016 年 予算(案)

収入の部

(単位:円)

◆IEEE Entity 間勘定	3,657,428	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,639,730	2015/12 月末会員数を元に計算: \$14135.6 Chapter Rebate \$3160、及び AG Rebate \$220x3 (LMAG, WIE, YP)を含む
・SB Rebate	112,752	2014 年実績\$972 より計算
▲ Chapter Rebate 支払	▲ 366,560	(\$220x13+\$75x4)=\$3160
▲ Affinity Group Rebate 支払	▲ 76,560	\$220x3=\$660
▲ SB Rebate 支払	▲ 112,752	
・Section Rebate 小計	1,196,610	
・Section Assessment 2015 前後期(同上)	4,398,991	2015 実績\$37922.34 を元に換算
▲ Japan Council 拠出金	▲ 3,604,173	Assessment 入金*82% - 1500 円(振込料)×2 (18%は Section に還元)
・Section Assessment 小計	794,818	
・MAW 支援	1,500,000	MGA より半額支援(総額 300 万円)
・LMAG 支援費	43,200	2015 活動費の reimbursement
・WIE 支援費	92,800	\$300 (IEEE WIE), \$500 (IEEE R10 WIE)
・YP 支援費	30,000	
◆Japan Council からの支援	1,519,128	
・MAW 支援費	750,000	1/4 支援(総額 300 万円)
・Section 支援金 (YP Award メダル代)	11,628	1 個分
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	180,000	9 名分
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	177,500	20 個分
・Section 支援金 (WIE)	100,000	WIE Symposium, WIE/YP joint WS
・Section 支援金 (YP)	50,000	YP WS
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	200,000	English Presentation 大会、SB 交流会
・Section 支援金 (Milestone 経費)	50,000	蹴上 Milestone
小計	5,176,556	
◆2015 年からの繰越金	2,901,696	
合計	8,078,252	

Japan Council の予算案と合わせ、116 円/\$として計算

Rebate 内訳 { \$2000 + \$4×(Fellow, Senior 会員数=224) + \$3×(Member, Associate, Student 会員数=2020)

+ \$1.5×(Affiliate 会員数=160) + \$200×(Chapter 数=13) } ×1.10 + \$300(Chapter Bonus:75x4)

+ \$200 (Section Bonus) + \$200×(Affinity group 数=3)

※会員数は、2015 年 12 月 31 日現在

支出の部

(単位:円)

◆会合・AWARD・活動 費	4,059,028	
・関西支部活性化費	1,000,000	会員増強対策費
・Chapter 活動強化費	500,000	会員メリット強化対策費
・MAW 支援費	750,000	1/4 支援(総額 300 万円)
・総会費	400,000	資料代、懇親会費など
▲懇親会費徴収	▲ 200,000	総会懇親会(5,000 円×40 名想定)
・講演会	50,000	5 名分
・理事会費	300,000	会場代、飲食代 6 回
・Committee 会合費	250,000	各種 WS、2 回、SAC 等
・YP Award 費	11,628	メダル代(1 人)
・学生研究奨励費	180,000	賞金、賞状代(15 人)
・支部メダル費	225,000	メダル代(25 個、内 5 個は支部保有)
・Student Branch 支援費	200,000	English Presentation 大会、SB 交流会
・LMAG 支援費	69,600	技術講演会開催費および準備費用
・WIE 支援費	192,800	WIE Symposium, WIE/YP joint WS
・YP 支援費	80,000	YP WS
・Milestone 経費	50,000	1 件
・Milestone Plaque 費立替分	700,000	5 個分
▲Milestone Plaque 費立替返金分	▲ 700,000	5 個分
◆事務経費	542,000	
・関西支部ページ移行費用	500,000	関西支部ページ移行費用
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	525,000	
・為替手数料,振込手数料、他	25,000	
・Histelcon2017 準備会合費一時立替払	500,000	2017 年に返還予定
小計	5,126,028	
◆2016 年への繰越	2,952,224	
合計	8,078,252	

Japan Council の予算案と合わせ、116 円/\$として計算

IX. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (1名)

畑 秀明 奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部 学生研究奨励賞受賞者 (9名)

朱 晋賢 立命館大学
藤井 祥平 大阪大学
古川 淳一朗 大阪大学
廣川 綜一 大阪大学
川崎 耀 大阪府立大学
落合 翼 同志社大学
酒井 学 大阪府立大学
塩見 準 京都大学

Thongtanunam, Patanamon 奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部 メダル受賞者 (新 Senior member) (17名)

阿久津 達也 京都大学
新井 健生 大阪大学
東 俊一 京都大学
福井 正博 立命館大学
廣瀬 哲也 神戸大学
井上 美智子 奈良先端科学技術大学院大学
加藤 博一 奈良先端科学技術大学院大学
川越 恭二 立命館大学
北山 匡史 三菱電機株式会社
三島 智和 神戸大学
三好 誠司 関西大学
中村 孝夫 住友電気工業株式会社
太田 淳 奈良先端科学技術大学院大学
高野 誠 大阪大学
和田 友孝 関西大学
山内 寛紀 立命館大学
矢野 厚 住友電気工業株式会社

IEEE 関西支部 新 Fellow

(3名)

新井 健生

大阪大学

長谷 智弘

龍谷大学

中村 哲

奈良先端科学技術大学院大学

(各アルファベット順、敬称略)

X. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section 3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section 4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

- Standing Committee Chairs,
- representatives of Chapters,
- representatives of Affinity Groups,
- such other members appointed by the Section Executive Committee,
- and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

(memo)

2016 年 IEEE 関西支部連絡先
〒632-8567 奈良県天理市櫛本町 2613-1
シャープ株式会社
研究開発本部 総合技術企画部 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>